

1 単元名 そうぞうしたことを、音読げきであらわそう  
 教材名 「お手紙」アーノルド＝ローベル 作（「国語 二（下）赤とんぼ」光村図書）

2 単元について

- ・本単元では、挿絵を基にあらすじを確かめ、主語と述語の関係に気を付けながら読み取る学習をする。そして、挿絵と本文を結び付け、登場人物の行動をできるだけ具体的に想像させることで、みんなで音読劇を楽しみたいという気持ちにつなげていく。
- ・児童はこれまでに「ふきのとう」の学習において、挿絵に描かれていることを手がかりにしながら場面ごとに登場人物の行動を考えたり、内容を確認したりし、音読を工夫する学習をしている。また、「スイミー」の学習において、登場人物の行動を想像しながら読み、例文を基にして穴あきのワークシートに書き込みながらあらすじをまとめ、お話を紹介する文を書く学習をしている。文章をすらすらと読むことは難しいが、丸読みや役割読みなど何度も練習したことで、登場人物になりきって音読できるようになってきている。国語科における児童の実態は下表の通りである。

A 児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に伝わるように話そうとしているが、発音が曖昧なため、うまく伝わらないことが多い。</li> <li>・平仮名はだいたい読んだり書いたりできるが、片仮名や漢字は50音表やルビが必要である。</li> <li>・音読は好きで、絵本や簡単な物語は自分で読むことができる。</li> <li>・文章理解は難しく、丁寧な読み取りと視覚的支援など個別の支援が必要である。</li> </ul>
B 児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いを相手に伝えることができるが、初めての場面では事前の練習が必要である。</li> <li>・話を静かに聞くことはできるが、難易度の高い内容や興味のわかない内容については理解が難しい。</li> <li>・中学年程度までの簡単な文章でもすらすらと読むことが難しい。</li> <li>・簡単な文章や日記を書くことはできるが、いつも決まった言葉になり、自分の思いや考えを入れて書くことは苦手である。文の中で長音、拗音、促音、助詞を正しく使うことが難しい。</li> </ul>

- ・授業者は、一緒に生活経験を想起しながら振り返らせたり、板書やワークシート、掲示物など視覚的な支援をしたりしながら、内容の理解や音読の工夫につなげていくことが必要である。学習を進める際には、個に応じた支援の手立てを考え、どの児童も楽しんで授業に参加し、できることを増やしていくような授業づくりをしていきたい。

3 単元の目標

〔知識及び技能〕	〔思考力, 判断力, 表現力等〕	〔学びに向かう力, 人間性等〕
①語のまとまりに気を付けて音読することができる。 (1)ク	①挿絵を手がかりにして、登場人物の行動を想像することができる。 C(1)エ  ②文章を読んで感じたことを共有することができる。 C(1)カ	①言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、思いや考えを伝え合おうとする態度を養うことができる。

4 単元の「課題解決的な言語活動」

物語を読んで想像したことを、音読劇に表す活動。（関連：言語活動例イ）

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語のまとまりに気を付けて音読している。 (1)ク	①「読むこと」において挿絵を手がかりにして、登場人物の行動を想像している。 C(1)エ  ②「読むこと」において、文章を読んで感じたことを共有している。 C(1)カ	①進んで登場人物の行動を想像しながら物語を読み、学習課題に沿って音読劇に取り組もうとしている。

6 指導と評価の計画 (全12時間)

	主な学習活動	指導上の留意点 (※支援)	評価
1 ・ 2 ・ 3	○範読を聞き、感想を書く。  ○単元課題、学習計画を確認する。 ○新出漢字を練習し、大切な言葉の意味を確認する。 ○音読練習をする。	・「仲よしの友達」や「手紙」について、これまでの経験を尋ねたり、教師の経験を伝えたりすることで、興味をもって学習が進められるようにする。 ※感想を書くことが難しいときは、感想の型を示したり、教師がインタビューしたり、板書をまねさせたりする。 ・単元の学習計画を提示し、「2学期まとめの会で音読劇を発表する」というゴールを知らせ、見通しをもちながら意欲的に学習に取り組めるようにする。 ※会話文に色分けしたシールを貼り、会話の主語を捉えやすくする。 ※片仮名と漢字にルビを振ったり、つまりやすい言葉には鉛筆で印をつけたりしておき、すらすら読めるようになったら消せるようにする。 ※音読の際には、指を添えながら読むと文章を読みやすくなることを伝える。	
4 ・ 5	○「お手紙」を読み、おおまかな内容を捉える。	・場面ごとに場所、登場人物、行動を表に整理しながら確認する。 ※挿絵の表情と感情とがつながりやすくなるように、シンプルな感情表現(幸せ・うれしい・悲しい・不幸せ)について表情マークで確認しておく。	
6 (本時) ・ 7 ・ 8 ・ 9 ・ 10	○場面ごとに、登場人物がしたことや行動の理由を考える。  ○役割音読をする。	・挿絵で登場人物の表情を見たり、挿絵を比較したりすることで、行動の理由に気付かせ、場面の様子を想像しやすくする。 ・ワークシートに挿絵を入れ、吹き出しに心の声を書くことができるようにする。 ・場面ごとに悲しい気持ちに青線、幸せな気持ちに赤線を引いて、音読工夫ポイントにする。 ※登場人物のお面をつけながら役割音読することで、役になりきって発表しやすくする。	【思・判・表①】 挿絵を手がかりにして、登場人物の行動を想像しているかの確認。 [記述・発言]  【知・技①】 語のまとまりに気を付けて音読しているかの確認。 [発言]
11 ・ 12	○発表会の準備をする。  ○音読劇を発表する。	・役割音読の様子を録画し、動画を振り返りながら、より登場人物になりきって発表できるように練習する。 ・2学期まとめの会で音読劇を発表し、感想を聞き合い、単元をまとめる。 ・参観できない保護者には動画の感想をいただく。	【思・判・表②】 文章を読んで感じたことを音読劇で共有しているかの確認。 [発言]  【学習に取り組む態度①】 進んで登場人物の行動を想像しながら物語を読み、学習課題に沿って音読劇に取り組もうとしているかの確認。 [発言]

7 本時の指導 (6 / 1 2)

(1) 本時の目標

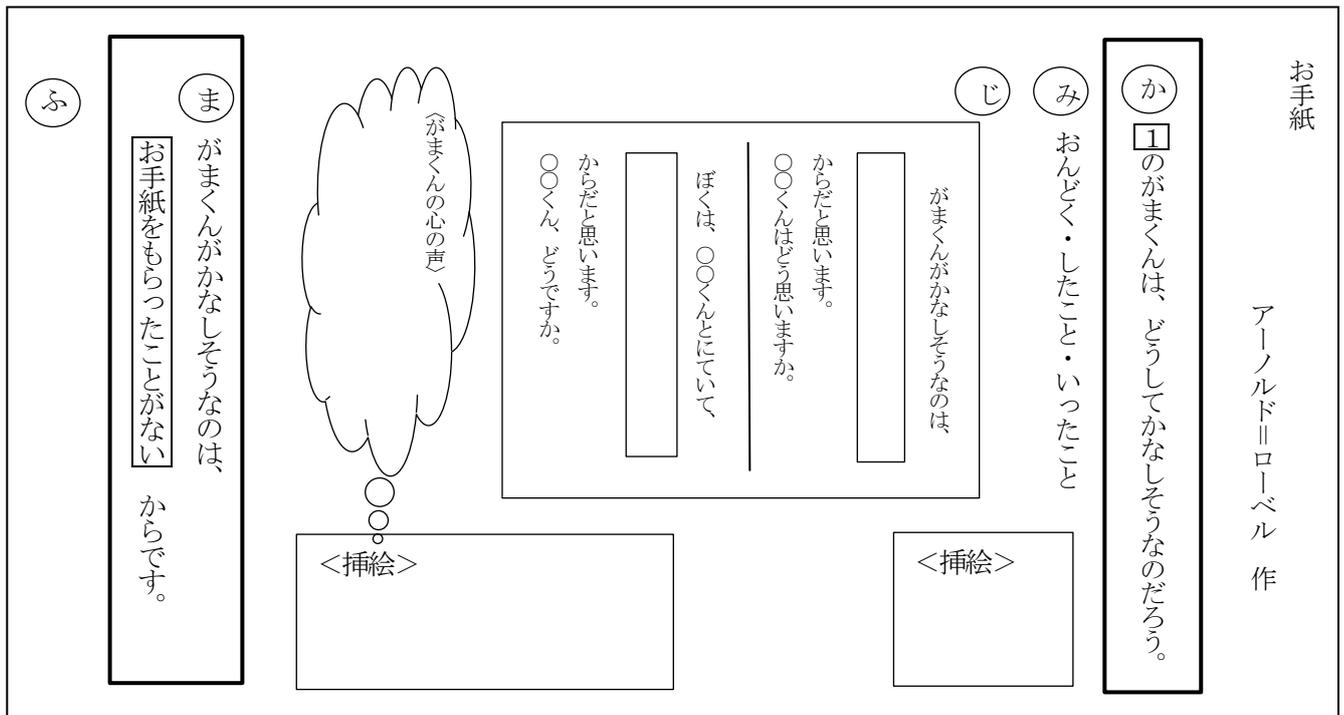
挿絵や本文を手がかりにして、登場人物のしたことや行動の理由を考えることができる。

(2) 展開 (4 5分)

段階	学習活動	・指導上の留意点【視点に関わって】 ◇評価 ※支援
導入 5分	1 前時までの学習を想起する。	・前時の学習プリントや掲示物を見て、題名、登場人物、場面の数を確認する。
	2 学習課題を把握する。	・1場面最初の挿絵を提示し、がまくんの表情に注目させる。
	①のがまくんは、どうしてかなしそうにしているのだろう。	
	3 課題解決のための見通しをもつ。	<b>【視点1ア：課題解決へ向けた「とりかかる発問」】</b> まず、1場面最後の挿絵を提示し、がまくんが変わらずに悲しそうな表情をしていることを確認する。次に、「どうすれば、悲しいわけが分かるか。」と問うことで、「スイミー」の学習と同じように「音読して、したことや言ったことを見つけるとよい」ということを確認し、課題解決の見通しをもたせる。
展開 25分	4 課題を解決する。 (1) 自力解決 ①音読する。  ②がまくんが悲しんでいるわけを考える。 (2) 全体学習 ①自分の考えを発表する。	・苦手意識が大きくなるないように、児童と教師とで交互読みをする。 <b>※教科書の本文が読みやすいように、指でなぞるように促す。</b>  ・1場面で「かなしい・ふしあわせ」のキーワードを探し、青色の線を引かせ、ヒントにすることで、がまくんが悲しい気持ちになる理由を教科書の本文から見つけやすくする。  <b>※児童の実態に合わせた対話シートを活用し、自分の考えを発表できるようにする。</b>
		・がまくんがかなしいのは、お手紙をもらったことがないからだと思います。〇〇くん、どう思いますか。 ・ぼくは、〇〇くんとなっていて、いちどもお手紙をもらったことがないからだと思います。どうですか。
	②自分と友達の考えについて、似ているところや違うところを見つける。	<b>【視点2：考えを積み上げる対話】</b> ワークシートに記入した自分の考えを発表し、友達の考えと比べることによって、自分の考えを確かなものにさせていきたい。
	(3) がまくんの心の声を書く。	◇挿絵や本文を手がかりにしなが、がまくんが悲しそうにしているのはなぜかを考え、「お手紙をもらったことがないから」と理由を書くことができるかの確認。 [ワークシートの記述・発言]  ・本時はがまくんの行動を中心に考えさせるため、ワークシートの挿絵にもがまくんだけに吹き出しを付けておく。 <b>※事前にいろいろな場面の写真に自分の心の声を書き込む作業を練習しておく。</b>

終末 15分	5 学習をまとめる。	・本時の課題についてまとめる。
	がまくんがかなしそうなのは、お手紙をいちどももらったことがないからです。	
	6 役割音読をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文頭と文末だけ書いてある掲示物を準備し、そこに繋げて、できるだけ児童の言葉でまとめていくようにする。</li> <li>・自分が、がまくんのように手紙をもらえなかったらどんな気持ちになるか問い、がまくんの行動にできるだけ共感できるようにする。</li> <li>・自分の役になりきって音読できるようにお面をつけたり、簡単な体の動きを入れたりする。</li> </ul>
	7 振り返りをする。 ・今日の学習を板書で振り返る。 ・分かったことやできたことを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で振り返りが書けるようにカードで3つの視点を確認する。</li> <li>※児童のできていた点、がんばっていた様子等を伝え、できるだけ自分で考えをまとめられるようにする。</li> <li>※書くことが難しいことが予想されるため、穴あきの振り返りシートを準備し、書き込みやすくしておく。</li> </ul>
8 次時の確認をする。	・次回は2場面の行動を確かめていくことを知らせる。	

## 8 板書計画



## 9 本時の授業改善の視点

### 【視点1ア：文章解釈のための発問の吟味「とりかかる発問」】

まず、1場面最後の挿絵を提示し、がまくんが最初の挿絵と変わらずに悲しそうな表情をしていることを確認する。次に、「では、どうすれば悲しいわけが分かるか。」と問うことで、「スイミー」の学習と同じように音読して、したことや言ったことを見つければいいということを確認し、今日の課題解決の見通しをもたせたい。

### 【視点2：考えを積み上げる対話】

登場人物の行動を具体的に想像できるように、まず自力解決の中で自分との対話をしながら一人で登場人物の行動のわけを考える。次に友達に自分の考えを発表したり、自分の考えと友達のと比べて自分との共通点や相違点を見つけたりしながら対話させることで、自分の考えを少しでも積み上げられるようにしていく。また、対話カードで3つの視点を確認し、教師が対話のモデルを示しながら交流を進めることで、児童が自信をもって自分の考えを発表できるようにしていきたい。